

1. 教育実習

指導教諭：1

授業者：1

大学名/学部/学科：

↓

学籍番号：1

1. 日時・教室：2025年6月6日（金曜日） 4時限（11:55～12:35）

2. 担当学年組：

3. 教材：教科書「地理総合」（出版社）実教出版

4. 単元：第2編 第1章

「テーマ2・1 熱帯の気候と生活とのかかわり」（p.34～35）

5. 単元の目標

赤道付近の熱帯地域における代表的な気候区（Af, Am, Aw）の特徴を理解し、気温や降水量といった自然条件が、人々の住居、農業、衣服、労働形態などの生活にどのように影響を与えているのかを多面的に学ぶことを通して地域ごとの文化や知恵への理解を深め、異なる環境に対する共感力を養う。また、気候と生活の関係を論理的に考察する力や、資料をもとに自分の意見を形成・表現する力を高めることも目的とする。

6. 教材観

本教材は、地理的知識の習得に加えて、視覚的資料を活用して気候と生活の相関を直感的に理解できる構成となっている。各気候区の特徴が図や地図で整理されており、写真資料では焼畑農業、プランテーション農業の様子などが掲載されている。視覚を通して生徒の関心を引き出す工夫がなされており、伝統的な住居方法、天然ゴム採取にも触れられている。この教材を通じて、生徒が「なぜこの地域ではこのような暮らしなのか」といった問いを持ち、思考を深めるきっかけを得ることができる。

7. 生徒観

本クラスの生徒は、学習意欲に個人差が見られるものの、日常の暮らしと関連付けながら学ぶことで関心を高めやすい傾向にある。物静かな生徒が多く積極的に発言するよりは熟考する傾向にあるが、質問を投げかけるとしっかり考え答えてくれる。身近でない赤道付近の地域についてはイメージが湧きにくいのが、資料や具体的な写真を提示するここで自分ごととして捉える姿勢が見られるようになる。地理的知識に加え、異なる文化や暮らしへの理解を深め、そこから自分の生活との比較を通して多角的に思考を展開できるような働きかけが重要である。

8. 指導観

本単元においては、知識の一方的な伝達ではなく、生徒自身が資料や写真などから情報を読み取り、「なぜそのような生活が営まれているのか」という問いを持ち、自ら考えることができるような授業構成を意識する必要がある。また、気候区に特徴的な農業や住居、労働形態といった生活文化を扱う際には、「気候と人間の関係性」という視点を軸に据え、生徒が論理的に関連づけて説明できるよう、発問や活動の順序に配慮する。さらに、他地域との比較や気候変動と絡めた考察へと発展させることにより、思考の深化を図る。

9. 単元の評価基準

【知識及び技能】

熱帯の気候区の特徴を説明できる。

【思考力・判断力・表現力】

気候の違いが生活様式に与える影響について、資料をもとに自分の言葉で説明できる。

【主体的に学習に取り組む態度】

異なる気候地域に暮らす人々の生活への関心をもって授業に参加し、自ら問いを立てようとする。

10. 本時の主題

熱帯の自然環境を人々はどのように利用しているのか考える。

11. 本時の目標

【知識及び技能】

熱帯の気候区（Af, Am, Aw）の違いと特徴を理解し、それぞれの地域の生活関係を説明できる。

【思考力・判断力・表現力】

熱帯の農業や住居の写真・資料をもとに、気候と生活様式の 関係を論理的に説明できる。

【学びに向かう力・人間性等】

熱帯に住む人々の知恵や工夫から、自然と共生する姿勢の大切さに気づく。

12. 本時の展開

	学習内容・活動	指導上の留意点	評価の方法等
導入 7分	・まず熱帯地域について授業をすることを説明する。 ・我々は直接的に熱帯と関係していないが、飲食などで間接的に関わっていることを理解させる。 ・例でチョコレートやコーヒーをあげる。 →原産国はどこかを考えてもらう。	・生徒の自由な発言を受け止め、発言がしやすい雰囲気を作る。写真を複数提示し、視覚的興味を喚起する。 ・どんな意見が出ても肯定する。	・発言の意欲や着眼点を観察し、資料を見て気づきを言語化しようとする態度を見る。 ・興味関心や既有知識を引き出せているかを観察する。

	→これらの食べ物が育つ地域、その地域の気候ってどのような環境なのか。そして、現地の人たちは、その気候の中で、どんな暮らしをしているのか。と繋げていく。 ・世界の気候区分（5つ）について触れ、紹介程度に気候区分を考えたケッペンの名前出す。 ・本時で扱う「熱帯」についてどのような印象（イメージ）があるか生徒に聞く。 ・本時の目標の共有をする。	・熱帯を含む5つの気候区分にも軽く触れておくことで次回以降の授業を捗らせるのが狙いである。 ・ケッペンの説明を口頭ですて、この人は気候区分を作ったことを理解させる。 ・質問に対して答えやすいように進行する。 ・ノートに本時の目標を書いているか確認をする。	・ノートを開かせ、本時の目標を書かせる。
展開 33分	【展開1】13分 ・熱帯地域に広がる熱帯雨林について説明する。 →セルバとジャングルは地域によって呼び方が異なっていることを理解させる。 ・熱帯収束帯（赤道低圧帯）の形成について説明する。 ・「なぜ熱帯では雨がたくさん降るのか？」を考えさす。 ・教科書 p. 34 の地図と気候グラフを使い、Af（熱帯雨林）、Am（熱帯モンスーン）、Aw（サバナ）それぞれの気候区の特徴を整理させる。 ・簡単な比較表を提示し、生徒にノートを取らせる。 【展開2】13分 ・写真資料を提示し、高床住居の構造と機能について考察させる。 「なぜこのような形になったのか？」を考えさせる。	・グラフ、地図、写真をスライドに提示して視覚的理解を促進させる。 ・気候区の位置と特徴を結びつけるようなスライド構成を工夫する。 ・グラフから読み取れる特徴をしっかりと抑えることを意識する。 ・湿度、降水量、洪水、害虫などの自然条件に着目するよう発問を設計する。	・発問に対する発言の論理性と根拠の有無を確認する。 ・ノートや比較表の記述から、用語・分類理解を評価する。 ・比較表の記述内容から、理解の深さと整理力を評価する。 ・発言において気候→住居の因果関係を説明できているか。 ・ノート記述や口頭での

	・「焼畑農業」と「プランテーション農業」の写真と説明文を提示。 ・焼畑農業→「なぜ焼くのか？」を考えさせる。 ・メリット・デメリットを比較表でまとめさせる。 ・プランテーション農業→「なぜ特定作物だけ育てるのか？」など問いかけ、農法の特徴とそれぞれの背景を説明する。 ・東南アジア、東アジアでは稲作が盛んと説明。なぜ盛んなのか。→季節風（モンスーン）の影響であることを理解させる。 【展開3】7分 ・現代の課題と私たちについて考えさせる。 ・熱帯雨林の伐採→減少していることを理解させる。	・「住居は気候に対する適応の一つである」と明示的に伝えることで思考の焦点を絞る。 ・焼畑農業と森林伐採、プランテーションと商業的農業のつながりに言及する。 ・「効率のよさ」と「環境破壊」のジレンマに着目させる。 ・資料文にある表現をそのまま引用させず、自分の言葉でまとめるよう促す。 ・伐採する目的と、それによって生活はどのように変化してきているか考えるように促す。	根拠づけの有無を評価する。 ・写真の観察→考察→発言のつながりを重視して、思考の展開力を測る。 ・比較表からメリット、デメリットが読み取れている。 ・意見の内容や、発言の具体性から思考の深まりを評価する。
まとめ 5分	・本時の振り返りと次時予告をする。	・ノート確認と疑問があれば共有する。	・振り返りでの発言や疑問の質。 ・ノートを提出で完成度を観る。

13. 評価

- ・授業中の発言や問いに対する反応から、思考力や関心を評価する。
- ・ノートの記述から、知識の定着度と学びの深まりを評価する。
- ・生徒の主体的な関わり（問いの発見、発問）から、学習態度を評価する。